

芸術学系

教員数	教員等数 (人)	教授 23 (23)	助教授 21 (20)	講師 14 (15)	助手 — (2)	技官〔準研〕 3 (3)	
	異動状況 (人)	退職・転出 3 (5)	昇任 5 (5)	採用 3 (3)	学内 1 (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		395 (457)	1 (20)	17 (36)	3 (4)		
	受賞数(件)	5 (5)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	7 (7)	25.9(33.3)	14,500(16,700)		
		学内プロ	13 (13)	54.2(46.4)	7,900 (7,020)		
奨学寄附金件数・金額		9件	2,980千円	(5件	2,150千円)		
受託研究件数・金額		1件	5,000千円	(2件	6,000千円)		
受託研究員	人 (1人)						
施設・設備							

・ () は前年度の数値を示す。

1 芸術学系の活動

COE：平成15年度採択された本学唯一のCOEは人間総合科学研究科の感性認知脳科学専攻が中心となってプロジェクトが進められているが、芸術学系からも約20名の教員が参加して研究を分担・遂行している。今後成果が期待できる。

外部資金：外部からの研究費導入については、全般に低調であったが、奨学寄附金は件数、金額共に若干のびている。科研費等、今後いっそうの努力が求められると認識している。

地域貢献：体育科学系と連携して昨年に引き続き活動を展開した。本年度は芸術学系地域貢献事業推進室を設けて、組織的な地域貢献を目指し、つくば市中心部において展覧会を催すなどして、その成果は目下冊子としてまとめている。

研究成果の公開：研究成果は学系として「芸術研究報」「芸術研究報・作品集」「芸術年報」を刊行した。また、「芸術学研究」が芸術学研究科芸術学専攻から刊行された。

2 自己評価と課題

本年度は芸術関連4組織が初の外部評価を導入した。準備に十分な時間を費やせなかったが外部から8名の評価委員を招き11月13日/14日にかけてヒアリングと現地視察を実施した。研究活動については大方良好な評価を得たが、施設の老朽化や研究成果の発表場所（ギャラリー・美術館等）の未整備、また国際的な芸術拠点の機能を果たすべきなど有益な指摘を得た。

3 その他特記事項

世界遺産専攻が芸術研究科（修士課程）に設置が認められ、1学年15名の定員で平成16年4月から開設の運びとなった。当面8名の専任教員が主として教育・研究にあたるが、それに伴い、教授、助教授各1名の純増が文部科学省から認められ、また特別教員配置（Ⅱ種）の2枠が学内措置された。